

強者の戦略

こんにちは。日本史の岡上です。センター試験が終わりましたね。受験生の皆さんはいかがでしたか？今年のセンターは例年よりも地図やグラフ、史料の読み取りからの出題が多く、ちょっと焦った受験生もいたかも知れませんが、普段から“知識を元に考える”日本史を実践していた皆さんは大丈夫だったのではないかと期待しています。

さて今回の出題は、戦前・戦後の日本人の動向から歴史的背景や国際社会の状況を考えるというものでした。特に設問 B は戦後史からの出題で、今まで出題がみられなかった時代だけに新鮮でしたね。もちろん戦後史といっても、しっかり教科書の範囲ですから、普段から満遍なく勉強を進めていれば問題はなかったはずですが…。それでは解説を始めていきましょう。

< 中国およびソ連からの日本人の

復員・引揚げから考える歴史 >

(1) 戦前、多くの日本人が中国に在住したのは何故？

設問 A からみていきましょう。

設 問

A 表に見るように多数の一般邦人が、中国に在住するようになっていたのはなぜか。20 世紀初頭以降の歴史的背景を、4 行以内で説明しなさい。

設問 A で問われているのは、「**多数の一般邦人が、中国に在住するようになっていた 20 世紀初頭以降の歴史的背景**」です。

まず、設問の「中国」の範囲をもう少し明確にしておきましょう。問題の表では、「中国東北地方」と「東北地方以外の中国と香港」とあり、また資料文(1)ではそれを「日本の占領地や植民地」と表現しています。つまり、**設問の「中国」とは「日本の占領地や植民地」であった「中国東北地方」と「東北地方以外の中国と香港」である**ということになります。

次に、設問の「一般邦人」とは具体的にどのような人々であるかを考えてみましょう。問題の表では「軍人・軍属」と「一般邦人」という区分けになっています。つまり、「軍人・軍属」以外はすべて「一般邦人」と考えていいでしょう。ちなみに「軍属」という言葉がピンとこなかった人もいかもしれませんが、軍属とは軍人（武官または徴集された兵）以外で軍隊に所属する者（例えば、事務や通訳などに従事する者）のことです。ただ言葉の意味は分からなくても、資料文(1)に「軍人・軍属の復員」とあるように、軍人とまとめられていることから、軍人に準ずる者を指す言葉であると理解できていれば良いでしょう。以上から「**一般邦人**」を具体的に考えれば、「**日本の占領地や植民地**」にあって、**中国に**

強者の戦略

進出した企業の人々や、中国に移住した人々、またそれらの家族と考えることができます。

ここまでを念頭におきながら、20世紀初頭以降の歴史的背景を考えていきましょう。時代が少し漠然としているので、ひとまず10年ごとに区切りながら、外交・経済それぞれの事情をみていきます。

1900年代

〔外交〕

日露戦争

- ・清国から旅順・大連の租借権、長春以南の鉄道とその付属の利権を譲渡される
- ・関東都督府が旅順におかれ、南満州鉄道株式会社が大連に設立される

〔経済〕

- ・日清戦争頃から中国への綿糸輸出が急増
- ・日露戦争後、大紡績会社が合併などにより独占的地位を固め満州市場への進出を強める

1910年代

〔外交〕

第一次世界大戦

- ・中国におけるドイツの根拠地青島と山東省のドイツ権益を接収
- ・二十一カ条の要求を中華民国政府に提出。南満州権益の強化を図る

〔経済〕

- ・大戦景気によりアジア市場に綿織物の輸出が増大
- ・満鉄の鞍山製鉄所が設立される

1920年代

〔外交〕

- ・幣原喜重郎による協調外交（対中不干涉政策）
- ・田中義一による積極外交（山東出兵など）

〔経済〕

- ・相次ぐ恐慌（戦後恐慌、関東大震災による震災恐慌、金融恐慌）

- ・資本輸出の拡大により、巨大紡績会社は中国に紡績工場を次々に建設（在華紡）

1930年代

〔外交〕

満州事変

- ・満州の主要地域を占領

日中戦争

- ・中国への進出

〔経済〕

- ・新興財閥（日産・日室など）が軍と結びつき満州へ進出
- ・昭和恐慌などにより満州移民が増加

以上をまとめて、解答を作成しておきましょう。但し、4行（120字）と字数がかなり厳しいので、どれだけ簡潔にまとめるのかがポイントですね。

【解答例】

A日露戦争で南満州、第一次世界大戦で山東省の権益を獲得するなか、資本主義の発達により商品・資本の輸出が拡大し企業進出が進んだ。さらに満州事変で満州全域、日中戦争で中国本土へと占領地が広がり、国内の不況も相まって中国への移住者が増加したから。（120字）

強者の戦略

(2) ソ連からの日本人の帰還からみえる、当時の国際社会

続いて設問 B です。

設 問

B ソ連からの日本人の帰還が、(2)のような経過をたどった理由を、当時の国際社会の状況に着目して、2行以内で説明しなさい。

設問 B で問われているのは、「ソ連からの日本人の帰還が、(2)のような経過をたどった理由」です。「当時の国際社会の状況に着目して」という条件もついています。まずは、資料文(2)にある「経過」を確認しておきましょう。

1950 年、ソ連からの帰還が中断した

ソ連政府は 1950 年に「日本人捕虜の送還を完了した」と宣言し、日本人の送還を中断した。

1953 年、ソ連からの帰還が再開した

日ソ両国の赤十字社の交渉を通じて 1953 年から帰還が再開されたが、日本側の要望通りには進展しなかった。

1956 年、ソ連からの帰還がほとんど実現

ほとんどの日本人の帰還が実現したのは 1956 年のことであった。

次に、「当時の国際社会の状況に着目して」という条件に着目して、～ それぞれの時期の日ソ関係を確認していきます。

1950 年

「朝鮮戦争勃発」の年とすぐに思いつきますね。朝鮮戦争が、アメリカが支持する自由主義陣営の大韓民国とソ連が支持する社会主義陣営の朝鮮民主

義人民共和国の戦争であることを考えれば、**朝鮮戦争勃発によって日本（当時、日本はアメリカの間接統治下にあった）とソ連の関係が悪化**することが読み取れますね。

1953 年

この年号はピンとこなかったかも知れませんが、上記で「朝鮮戦争勃発」を考えた流れから、「**朝鮮休戦協定**」が結ばれた年であることに気付ければいいですね。1953 年には板門店で朝鮮休戦協定が結ばれ、米ソの対立も緩和に向かいました。当然、**日ソの関係も改善に向けて動き始めた**わけです。

1956 年

この年号は大丈夫ですね。「**日ソ共同宣言**」が発表された年です。日ソ共同宣言は自主外交を掲げた鳩山一郎首相がソ連首相ブルガーニンとの間に締結したもので、**日ソの国交正常化が実現**しました。

以上をまとめれば、

1950 年 朝鮮戦争勃発 ソ連からの帰還中断
1953 年 朝鮮休戦協定 ソ連からの帰還再開
1956 年 日ソ共同宣言 ソ連からの帰還ほぼ完了

となりますが、この設問も字数が 2 行 (60 字) しかないので、簡潔にまとめる努力が必要です。

【解答例】

B ソ連からの日本人の帰還は朝鮮戦争勃発で中断したが、朝鮮休戦協定により再開、日ソ共同宣言による国交正常化でほぼ完了した。(60 字)

さて、いつものように論述問題の解答はもちろん一つではありません。「これはどうだろうか?」「これではだめなのか?」と自分では判断つかないもの

強者の戦略

は必ず、添削してもらおうことをお勧めします。この『強者の戦略ホームページ』でもメールにて質問などを受け付けていますので、どしどし送ってきてくださいね。

今年度の「東大日本史のみかた」はこれで最後になりました。来年度も東大の問題を題材に、様々なお話しをしていきたいと思います。ではまた！！